4：放射線研究に用いられる新しい手法

概　要		科学の進歩は日進月歩で、iPS 細胞などの大発見が常に起こります。原医研では、こうした新しい手法を積極的に導入し、放射線研究を推進しています。本公開講座では、iPS 細胞や熱帯魚のゼブラフィッシュを用いた研究など、放射線研究の最前線を紹介します。	
会　場		広島市南区民文化センター・スタジオ　（広島市）	
時　間		18時00分　～　19時30分	
定員／対象		120名 ／ どなたでも	
1回	6/11（木）	**iPS 細胞を用いた研究**	原爆放射線医科学研究所 特任准教授　遠藤 充浩
		今さら聞けない (?)「iPS 細胞とは何か」。山中先生が発見した iPS 細胞を使って、がん細胞を攻撃するリンパ球を大量に作製し、がん治療に応用することが試みられています。放射線影響研究への応用も行われており、専門家が基本から分かりやすく解説します。	
2回	6/18（木）	**ゼブラフィッシュと放射線研究**	原爆放射線医科学研究所 特任准教授　本庶 仁子
		ゼブラフィッシュは熱帯魚ショップでおなじみの魚ですが、透明で体内が外から観察できる点や、成長が早くてすぐ結果が得られることなど、実験動物として多くの利点があります。きれいな動画を楽しみながら、ゼブラフィッシュを用いた研究を紹介します。	
3回	6/25（木）	**放射線研究の新しい方向**	原爆放射線医科学研究所 教　授　稲葉 俊哉
		誰でも1年に1度くらいは撮る胸の X 線写真も、高空を飛ぶ飛行機内で浴びる放射線も、同じように見えて、実はその意味あいは全然違います。iPS 細胞やゼブラフィッシュ以外に、次世代シーケンサや全自動画像解析装置など、最新鋭の機器が浮き彫りにする放射線の生物影響について紹介します。	

講座内容に関する問合せ　霞地区運営支援部 総務グループ
電　話：082－257－5802
メール：kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp